

横須賀市における胃がんリスク検診の導入と運用・課題

横須賀市の胃がん検診は平成13年10月より以前から行われていた胃X線検査(以下X線法)に加えて、血清ペプシノゲン法(以下PG法)を取り入れ、受診者の希望でどちらかを行っていた。X線法の受診率は2%前後で、胃がん発見率は0.1%前後であり、平成18、19、22年度の発見胃がんは0件であった。(表1) またそれに加えて、撮影技術の問題や読影医の減少などの問題もあり、PG法と血清ヘリコバクターピロリIgG抗体(以下HP抗体)を組み合わせた胃がんリスク検診の導入を行政側、医師会側にそれぞれ進言し、ワーキンググループを立ち上げて協議を始めた。医師会はもちろんのこと行政側も非常に協力的で、概算でのX線法とPG法の費用対効果も出してもらった。(表2) 医療関係者には、三木一正先生を始め、第一線で活躍されている先生方に講演をお願いして啓発した。行政側にも講演に参加してもらった。その結果、平成24年度からX線法を全廃して、40歳以上の市民全員を対象として、胃がんリスク検診が行われることになった。

検診対象除外者、陽性判定基準、分類、判定等は胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル2009に従った。A群のうち、除菌歴のあるもの、および胃・十二指腸潰瘍の既往のあるものは、修正してB群とした。BCD群は要精密検査とし、精密検査で行った内視鏡写真は医師会に提出し、3人1組からなる検診読影委員会でダブルチェックすることとした。

24年度、25年度、26年度の受診率は、15.6%、8.5%、6.9%で、A群の割合は53%、53%、57%であった。精検受診率は、79.2%、77.5%、76.4%で、それぞれ108件(早期がん85件、進行がん23件)、45件(早期がん31件、進行がん14件)、30件(早期がん27件、進行がん3件)の胃がんが発見された。胃がん発見率は、0.496%、0.448%、0.405%だった。胃がん以外にも、食道がん、胃悪性リンパ腫、胃MALTリンパ腫、十二指腸がんなどが発見された。検診実施医療機関は136~137施設、精密検査実施医療機関は62~65施設だった。(表3) 胃がん1件を見つけるに要した費用は、概算でX線法、PG法は平成23年以前の5年間の平均で、それぞれ2,830万円、151万円であった。胃がんリスク検診では24年度は112万円、25年度は98万円であった。(図1) 24年度のA群の中から4件の胃がんが見つかった。1件はHP抗体3未満で、他の3件は3~6.2であり、いわゆる陰性高値であった可能性がある。(表4) 28年度からは、日本ヘリコバクター学会の注意喚起を踏まえてHP抗体3以上を陽性にする事とした。

横須賀市の胃がんリスク検診は、胃がんの発見という観点からみると一定の成果を得ていると思われる。また胃がんの発見という目的以外にも、ピロリ菌陽性者を抽出し除菌を行っていることで、今後の胃がん抑制効果も期待できる。

横須賀市胃がん検診(平成13年度～23年度)

年度	対象者数	受診者数		受診率(%)		要精検数		精検受診者		精検受診率(%)		発見胃がん		
		X線	PG法									X線	PG法	
13	107,400	X線	1,982	6,742	1,8	(6,0)	353	1,547	158	1,041	44,8	(67,3)	X線	3
		PG法	4,490		4,2		1,194		883		74,0		PG法	16
14	108,100	X線	1,919	13,955	1,8	(12,9)	310	3,900	120	2,247	38,7	(57,6)	X線	3
		PG法	12,036		11,1		3,590		2,127		59,2		PG法	39
15	108,900	X線	2,286	12,206	2,1	(11,2)	349	2,989	135	1,480	38,7	(49,5)	X線	5
		PG法	9,920		9,1		2,640		1,345		50,9		PG法	20
16	109,700	X線	2,282	13,173	2,1	(12,0)	351	3,241	171	1,725	48,7	(53,2)	X線	4
		PG法	10,891		9,9		2,890		1,554		53,8		PG法	33
17	119,900	X線	2,421	14,065	2,0	(11,7)	356	3,848	164	2,132	46,1	(55,4)	X線	2
		PG法	11,644		9,7		3,492		1,968		56,4		PG法	33
18	119,900	X線	2,378	15,787	2,0	(13,2)	372	3,687	147	1,967	39,5	(53,3)	X線	0
		PG法	13,409		11,2		3,315		1,820		54,9		PG法	27
19	120,500	X線	2,299	16,909	1,9	(14,0)	389	3,434	202	1,757	51,9	(51,2)	X線	0
		PG法	14,610		12,1		3,045		1,555		51,1		PG法	34
20	121,960	X線	2,015	14,535	1,7	(11,9)	384	3,310	230	1,740	59,9	(52,6)	X線	2
		PG法	12,520		10,3		2,926		1,510		51,6		PG法	18
21	132,918	X線	2,432	18,958	1,8	(14,3)	397	4,594	259	2,854	65,2	(62,1)	X線	2
		PG法	16,526		12,4		4,197		2,595		61,8		PG法	45
22	124,519	X線	2,245	19,064	1,9	(15,3)	388	4,174	254	2,644	65,5	(63,3)	X線	0
		PG法	16,639		13,4		3,786		2,390		63,1		PG法	31
23	124,519	X線	2,947	20,809	2,4	(16,7)	455	3,907	310	2,460	68,1	(63,0)	X線	3
		PG法	17,862		14,3		3,452		2,150		62,3		PG法	36

(表 1)

1件の胃がん発見にかかる費用

年度	20年度		21年度	
	PG法	X線	PG法	X線
がん発見数 (人)	18	2	45	2
委託料/発見数 (円)	470,692	12,957,200	249,385	14,768,362

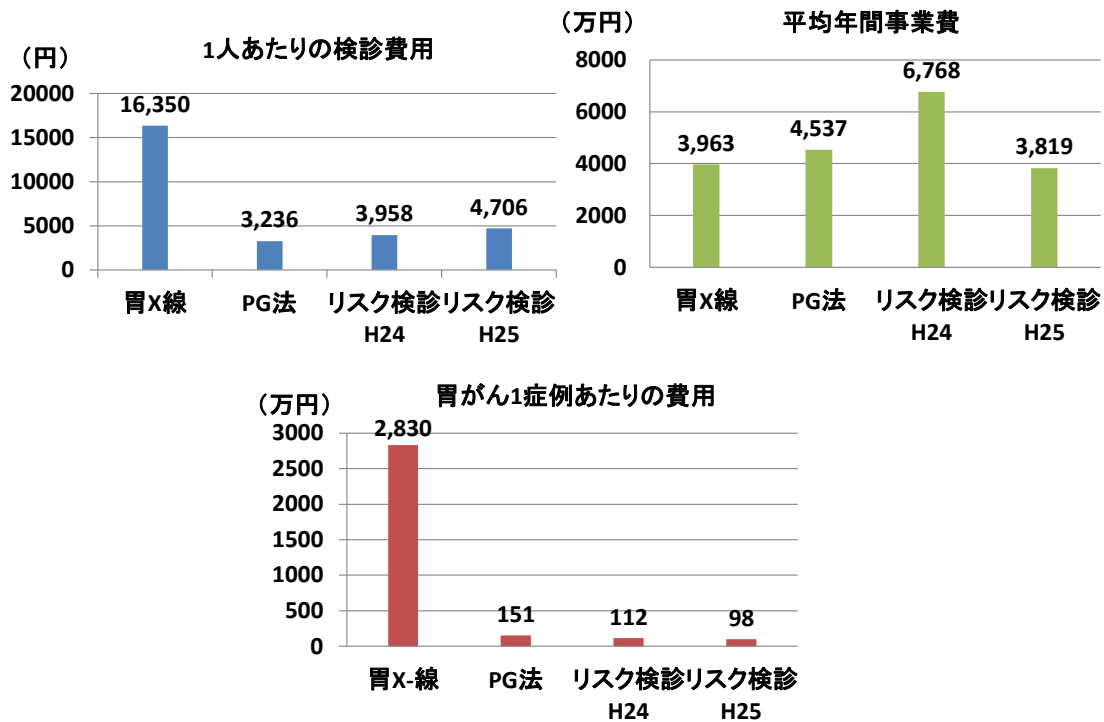
(表 2)

胃がんリスク検診結果

年度	対象者数	受診者数 受診率(%)	要精検者数	精検受診者数 精検受診率(%)	発見胃がん		胃がん以外の 消化器がん	検診実施医療機関	
					発見数 発見率	進行度		精密検査実施医療機関	
								早期 (%)	進行 (%)
24	139,290	21,772 (15,6)	10,304	8,162 (79,2)	108 (0,50)	早期 (%)	85 (78,7)	19例 食道がん 12例 胃悪性リンパ腫 4例	136施設
						進行 (%)	23 (21,3)	十二指腸がん 2例 胃MALTリンパ腫 1例	
25	117,518	10,038 (8,5)	4,688	3,631 (77,5)	45 (0,45)	早期 (%)	31 (68,9)	14例 食道がん 9例 胃MALTリンパ腫 3例	136施設
						進行 (%)	14 (31,1)	十二指腸がん 1例 胃カルチノイド 1例	
26	107,480	7,408 (6,9)	3,214	2,454 (76,4)	30 (0,40)	早期 (%)	27 (90,0)	3例 食道がん 3例	137施設
						進行 (%)	3 (10,0)		

(表 3)

費用対効果(平成24、25年度)



(図 1)

A群からの胃がん(24年度)

	性	年齢	PG I	PG II	I / II	HPAb	内視鏡 施行日	組織型	治療
1	F	71	40,7	8,4	4,8	6,2	H25.12.7	tub.	In Ope
2	M	63	38,8	10,3	3,8	3,0	?	tub1	ESD
3	M	69	23,6	4,7	5,0	3,0未満	H27.5.11	tub. 進行	開腹手術
4	M	69	33,2	10,0	3,3	4,0	H27.8.19	tub. 進行	In Ope

(表 4)